

発熱時の相談・受診方法 などのお知らせ

町民の皆さんへ

全国では1日あたり2千人超の感染者が確認され、県内でも感染源の推定が困難な事例や複数のクラスターが発生し、感染者は増加傾向となっています。発熱などの症状がある場合は、「発熱等の症状がある方の相談・受診の流れ」(7ページ)を参照し、適切な対応をお願いします。新型コロナウイルス感染症対策分科会は、感染リスクが高まる「5つの場面」と「感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫」を提言しています(本ページ下部)。町民の皆さんには、手洗いや消毒、マスクの着用、換気の実施などの基本的な感染対策に加えて、会食する場合の留意点を心掛けるようお願いします。

冬を迎え、インフルエンザの流行時期にもなります。高齢者や基礎疾患をお持ちの方、妊婦、乳幼児から児童・生徒の皆さんは、早めの予防接種をお願いします。

新型コロナウイルス感染症は誰もが感染する可能性があります。ありますが、患者やその関係者に対する思いやり、医療関係者など生活に不可欠なサービスの提供に従事している方々への感謝の気持ちを持ち、応援をお願いします。

矢巾町長 高橋昌造

町長メッセージの全文とコロナ関連の情報は、QRコードから町ホームページで確認できます。



新型コロナウイルス感染症への感染の懸念などにより、医療機関の受診を控える傾向が見られますが、持病の治療や予防接種・健診等による健康管理は重要です。①～④について注意しながら、適切に受診しましょう。

医療機関で 必要な受診を

- ①過度な受診控えは健康上のリスクを高めてしまう可能性がある
- ②コロナ禍の中でも健診や、子どもの予防接種などの健康管理は重要
- ③医療機関や健診会場では、換気や消毒などの感染症対策を徹底している
- ④健康に不安がある時は、まずはかかりつけ医に相談を

▼問い合わせ 役場健康長寿課健康づくり係 (☎ 611-2822)

年末年始

会食や外出時の注意点

年末年始が間近となり、会食の機会が増えてくる時期です。飲酒を伴う懇親会や長時間の飲食などは「感染リスクが高まる『5つの場面』」(新型コロナウイルス感染症対策分科会、7ページ参照)とされています。

この5つの場面を踏まえ、「感染リスクを下げ、

年々、新年の初詣などの外出時はマスク着用、ソーシャルディスタンスの確保、混雑を避けるなど、できる限りの対策をお願いします。

●会食のときの留意点

利用者

- 飲酒は4人以下で短時間、適度な酒量で留める
- なるべく普段一緒にいる人と行く
- はしやコップは使い回さない
- 会話するときはなるべくマスクを着ける
- 換気などが適切に行われている店舗を利用する

飲食店

- 感染症対策に係るガイドラインの順守(従業員の体調管理・マスク着用、席ごとに設置するアクリル板の効果的な利用、換気など)
- 来店者に飲食時の感染症予防や、接触確認アプリ(COCOA)のダウンロードを呼び掛ける



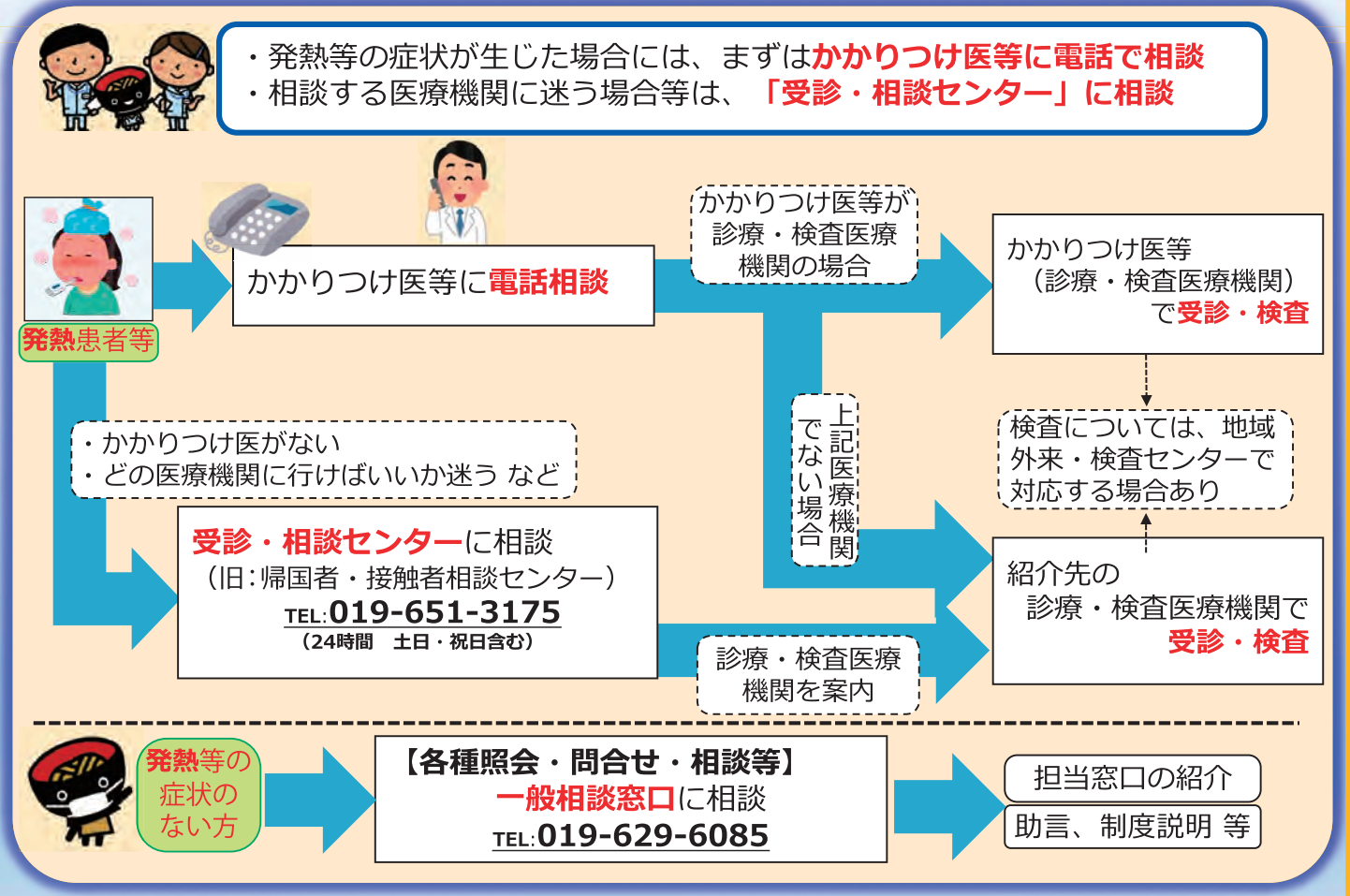
COCOAの入手はこちらから

← Android

iOS →



発熱等の症状のある方の相談・受診の流れ（令和2年11月～）



感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

